

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670102542
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホーム 桜
訪問調査日	平成22年3月16日
評価確定日	平成22年5月6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4670102542
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホーム 桜
所在地	鹿児島県鹿児島市下福元町9057番地 (電話) 099-210-8655

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年3月16日	評価確定日	平成22年5月6日

【情報提供票より】(22年2月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	木造鉄筋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要(2 月 16 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山クリニック・鹿児島徳州会病院・朝隈歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

谷山の郊外、自然環境に恵まれた地に「桜」がある。法人のケアハウスが隣接し、広い敷地は季節を感じながらの散歩や森林浴に最適である。また、桜の季節にはホームの名前の由来にもなっている桜の花見も楽しめる。「みんなで...入居者、家族、職員が一体となり心を合わせる」「ゆっくり...ゆとりある心」「楽しく...一人ひとりが笑顔で過ごす」を日々の目標にし、管理者、職員は常に利用者、家族の満足に応えられるように取り組んでいる。職員の離職もほとんどなく、なじみの関係が構築され、家族のような雰囲気とともに毎日楽しく過ごせるように心がけ、利用者からの「ありがとう」のこぼれや笑顔に励まされながら職員は日々のケアに邁進している。開設して9年目になるが地域貢献やサービスの質の向上に向けて常に目標を持って取り組んでいるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点はなかったが、常に改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員個々に自己評価に取り組んでもらい、管理者、計画作成担当者がまとめて桜全体の自己評価票を作成した。外部評価の結果はいつでも閲覧できるようにホーム玄関に置いてあり、家族には概要表を送付し、運営推進会議でも報告をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	民生委員、地域包括支援センター職員、家族、施設長、管理者などの参加を得て2ヵ月1回開催している。家族は限定せず、参加できる家族には参加を促し、参加できなかった家族には議事録を送り、討議内容を報告している。消防署の救急救命の講習後に会議を開き、参加した家族や地域の方から勉強になったとの声があがった。今後も幅広く地域の方と家族の参加を促してホームの運営と地域貢献に活かした会議の取り組みを検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置しているがなかなか意見をもらえない。家族会の際に、新しい利用者の家族と以前からの利用者の家族に問いかけて意見を引き出すようにホーム側から投げかけを行っている。また、面会時にも職員は家族とコミュニケーションを図りながら意見、要望を引き出すようにしている。出された意見、要望については連絡帳などで職員は共有を図り、全員で検討して改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	中学生の職場体験学習の受け入れや高校生・大学生の実習先になり、子ども達との交流の機会を作っている。また、併設の施設に訪れる保育園児との交流もある。地域の夏祭りも参加し、見学を通して地域の方々との交流に努めている。今年度は地域との連携と地域貢献を兼ねてホーム側から積極的に出かけて行き、認知症の理解とホームの啓発に取り組むことを検討している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念に「家庭的な環境と地域住民との交流のもとで」との文言があり、地域密着型サービスとしての役割を謳ったものと、日々のケア理念として「みんなで...入居者、家族、職員が一体となり心を合わせる」「ゆっくり...ゆとりある心」「楽しく...一人ひとりが笑顔で過ごす」を職員で作成して掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の理念を唱和し、日常、迷う場面があると理念を確認して理念に沿ったケアの実践に向けて取り組んでいる。事務所、ホールに理念を掲示し、職員用トイレにもケア理念を掲示している。また、理念は重要事項説明書にも明記している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学生の職場体験学習の受け入れや高校生・大学生の実習先になり、子ども達との交流の機会を作っている。また、併設の施設に訪れる保育園児との交流もある。地域の夏祭りにも参加し、見学を通して地域の方々との交流に努めている。今年度は地域との連携と地域貢献を兼ねてホーム側から積極的に出かけて行き、認知症の理解とホームの啓発に取り組むことを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員個々に自己評価に取り組んでもらい、管理者、計画作成担当者がまとめて桜全体の自己評価票を作成した。外部評価の結果はいつでも閲覧できるようにホーム玄関に置いてあり、家族には概要表を送付し、運営推進会議でも報告をしている。改善課題については職員全員で話し合って改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター職員、家族、施設長、管理者などの参加を得て2ヵ月1回開催している。家族は限定せず、参加出来る方に参加を促し、参加できなかった家族には議事録を送り、討議内容を報告している。消防署の救急救命の講習後に会議を行い、参加した家族や地域の方から勉強になったとの声があがった。今後も幅広く地域の方と家族の参加を促していく取り組みを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスについての困難事例など相談や情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。介護相談員の受け入れも行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、食事・排せつ・歩行・入浴・日中夜間の状態、受診結果、来月の予定を項目ごとに担当者がまとめ、日常の様子や行事の際の写真など掲載したホーム便りと一緒に報告している。金銭管理は出納帳で管理し、面会時にサインをもらっている。職員異動はホーム便りで報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情相談窓口を重要事項説明書に明記して家族に説明している。また、面会時や家族会時に意見を聞く機会を設け、出された意見、要望については運営に反映させるように職員全員で解決に向けて話し合っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はなじみの関係の重要性を認識して法人の異動は基本的にはしない方針である。両ユニットの利用者に職員全員が関わっており日頃より顔なじみの関係ができていますので、ユニット間の異動は行っているが特に混乱もなく、利用者へのダメージはない。職員の勤務条件が良く、離職はほとんどなく開設当初からの職員も多い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は常勤、非常勤問わず段階に応じて全職員が受講できるように配慮し、受講後は職員会議にて研修報告をし、全員が知識と技術を共有できるようにしている。ホーム内研修は研修計画を作成し、毎月行っている。また、資格取得の支援もしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホーム連絡協議会に加入して研修や情報交換などを行っている。研修には職員全員が交代で参加できるように考慮している。また、相互訪問もあり、気軽に訪ねるとともにサービスの質の向上に向けて情報交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学をしてもらい、納得してから入居してもらうようにしている。本人が見学に来れない場合はこちらから会いに行き、本人、家族の思いや希望を聞き、事前に職員に情報提供をして受け入れている。また、自宅から入居の場合は自宅訪問をして利用者の生活背景を把握するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が日々過ごす中で、味噌作りや梅干し作り、餅つきなど人生の先輩として教わることも多い。また、日常の業務で職員は当たり前のようにやっていることでも利用者から「ありがとう」と言われると仕事の励みになる。職員も人間として成長出来るように利用者、家族から学んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけや本人の表情や言動から思いや意向の把握に努めている。また、個々の生活リズムを尊重し、心身の状態を把握して本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見、要望と職員の意見を聞き、医師の指示を仰ぎながら本人本位の介護計画を作成している。自己管理のできる利用者については職員は極力手を出さず見守りで支援し、自己管理の短期目標を決めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとのモニタリングと6ヵ月の定期的な見直しを行っている。入退院後や状態に変化があれば、都度見直しして現状に即した新たな介護計画を作成している。家族とは面会時に話し合い見直しに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診やお墓参り、毎週土曜日の買い物支援など本人、家族の要望や状況に応じて柔軟に支援している。また、医療連携体制により看護師による利用者の健康管理を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診支援を行っている。ホームの看護師と医療機関と密に連携を図り利用者の健康管理を行っている。協力医療機関とは24時間体制で連携が図れており、訪問診療もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については入居時に重要事項説明書の中で説明して同意書をもっている。また、協力医療機関とは連携が図れている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ことば使い、語調を日頃より気をつけて自尊心を傷つけるようなことのないように日々努めている。また、接遇に関する研修も行っており、職員採用時の個人情報保護の誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調、気持ちに沿った支援を行うように努めている。起床時間、朝食も個々のペースで支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と同じテーブルで楽しく食事ができるように雰囲気作りをしている。また、手作りのおかしを利用者とともに作って楽しんだり、ときにはラーメン屋、そば屋、焼き肉屋などで外食を楽しむこともある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきを目安にしているが、毎日でも可能であり、利用者の体調や希望に合わせた支援をしている。自立の利用者もあり、職員の見守りで安心して入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、踊り、歌などを楽しんだり、縫物、編み物、菜園の手入れなど個々の得意なことを活かした支援を行っている。また、本を読むことが好きな利用者があり併設の施設の図書室に本を借りに行ったりしている。ソープ流し、花見、外食など気晴らしの支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内が広く、天気の良い日は四季を感じながら散歩を楽しんでいる。また、買い物、ドライブなど外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。昼間は鍵をかけず安全で自由な暮らしが送れるように支援している。外出傾向のある利用者は居室のドアに鈴をつけるなどして夜間の安全対策を行っている。外出する利用者には職員がさりげなく着いて行き、見守っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立ち会いのもと年2回避難訓練を行っている。通報システムとスプリンクラーを設置し、併設の施設とは協力体制を話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は記録し、職員は個々の状態の把握をしている。身体状況に応じて食事形態(刻み、ミキサー食)を考慮している。栄養バランスは定期的に栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の食堂兼居間は広くて明るく、開放感がある。廊下が広く、手すりが設置され居室と居間との行き来も程よいハビリになっている。全体的に木目調で木の温かさが出ている。また、玄関横にもセカンドリビングがあり、ソファやテレビが置かれ、利用者はお気に入りの場所でくつろげる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレ、洗面がついており、プライバシーにも配慮されている。テレビや姿見、家族の写真、仏壇などが持ち込まれ、ホームの家具を上手に使う個性のある居室作りの工夫がされている。		